

4. ふゆ

板橋富士見幼稚園幼児教育センター長

鍋島 恵美

1. 新しい環境

雨がきつい日には、テラスに吹き込んで床が広範囲でぬれるので、それを防ぐためのカッシンが建てられた。今日初めて見るわたしは、その光景に違和感を覚える。が、きっと日常になれば自然になるのであろう。今まで大丈夫だったことが、そうでなくなるほどに異常気象の現象が身近で起きていると感じる。その場で、3歳児の子どもと保育室前のベンチに腰掛けると、ちょうど目の前にアンズの幹がこのカッシンの窓から見える。首を寄せ覗くと、木の幹のこぶが亀の甲羅のような模様になって程よく膨らんでいる。「カメさんがいる」と、わたしの気持のカタチを言葉にしてその子と見つめ喜びあう。



2. 鉄棒と短縄とのコラボ

初めてみる遊び

先生が短縄を鉄棒に結んでつくられたブランコに乗って遊ぶ子。両手の縄を持つ手にギュッと力が入っているのを感じる。落ちないように踏ん張って両腕、上半身、膝から腿へと力んで揺れるスリルを体いっぱい感じている。「怖い楽しい」気持ちのカタチ。スリル満点なのだろうか!?



- 1) 縄のかけ方いろいろ 自分にとっていい加減を手と体と目を使って探っていく



縄のかけ方いろいろ

自分にとって
いい加減
手と体と目を使って
探っていく

- 2) 5歳児が遊んでいる所に4歳児もいる

4歳児も彼らなりに短縄を結び付けたり、長さを変えたりと5歳児を横に見て自分にいい加減をまねていく。



固定遊具の鉄棒と短縄のコラボレーション 素晴らしいアイデアだと感心する

3. 泥山にトンネル開通

初めてみる環境

山がつるつる光っている



随分と固めた後が伝わってくる

トンネルの中にこどもも入って遊ぶらしい

粘土質の土が活きる

覗く子どもと一緒にわたしもしゃがんで覗いてみる

と

そこに見えた光と影

美しい形「わあきれい 見てごらん」と声をかける

4. 物言わず 物語る環境

1) 花壇のきれいな畝の波

植えられたこれから顔をだす

チューリップの球根

その畝にあそぶリスやウサギ

夜にはひそひそ何を物語っているのだろう

“ずきずきワクワク” する





3) 鉄棒の後ろの地面に白いわっか

「何だろ?」と思いみていると、4歳児の女の子が現れる。

「〇〇の種を植えてるの」と言う。しばらくして立札をつくってそこにたてようとするが、地面が固く刺さらない。

私は、先が尖った枝を見つけてほじくって穴をあけてやる>

5. 継続する探究する環境



持続可能なお米作りの環境

お米作りに挑戦した後、稲刈りをして残っている稲にヤゴが生息する

循環型 小さなビオトープ ヤゴからトンボが孵化する瞬間 立ち会ってほしいなあ

....

大寒の入り・立春と季節が移り変わる中、その温度差を敏感に体感してほしい

「こおりのじっけんものがたり」が生まれそう ぞくぞくする

おわりに

「富士見のいいところみつけた!」と、子どものように「はる・なつ・あき・ふゆ」と季節が移り行く頃に、京都から東京へと体と心を移動させ、その時々々の富士見の環境に目をとめ気ままに語ってみました。気ままなるがゆえに、思わぬところに「なるほど」と心を奪われる瞬間や先生方の日常に触れ、こどもと共にある富士見の園の文化に目を奪われます。「物語る」ということをさりげなく先生方に伝える試みをしていますと、今年度のお米作りの子どもたちとの生活の過程が、その時々々に撮影された写真を通して保護者の皆さんに発信していただきました。子どもと共に紡ぎだした1年間の記録 ポートフォリオです。是非見て感想を先生方に伝えていただけると励みになります。お待ちしております。

今年度は、園庭環境に丁寧に目を向けて富士見の保育のルーツを探りたいとみんなで話し合っています。富士見の園庭には、四季を通して不思議がいっぱい隠れています。